

基本目的Ⅲ

# 子育てと学び

育てる幸せを感じ 生涯にわたり互いに学び続ける 家庭と文化を築くまち



# 11 子育て

## 施策目的

社会全体で健やかな子どもの成長を支え、  
子育ての喜びを感じられるまちになる

- ▶ 安心して妊娠・出産・子育てができ、健やかに子どもが育つための支援の充実
- ▶ 親子を見守り、家庭を支える地域体制づくり
- ▶ 子どもたちが質の高い幼児教育・保育を受けられる環境づくり

## 現状と課題

### 子育て不安の増大

子どものしつけや成長、発達などの育児不安を解消するため、母親と子どもの健康を守る母子保健事業と様々な子育て支援事業を一体的に推進し、妊産婦への支援及び子どもの年齢や成長段階に応じた発達や成育の支援が必要です。

### 家庭や地域での子育て力の低下

核家族化や地域での人と人のつながりが希薄化する中、家庭や地域、行政の地域社会が一体となって、親子の居場所や交流の場の確保、児童虐待防止、子育て相談などの支援に取り組むことが求められています。

### 保育ニーズの多様化

保護者の就労形態の多様化や女性の社会進出に伴い、多様な保育サービスの提供が求められています。

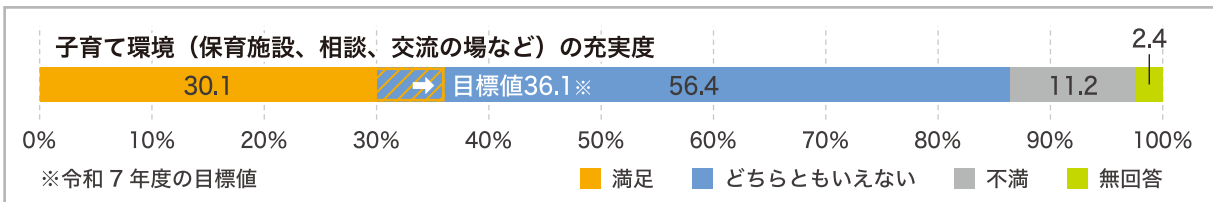
## 施策の方向

- 1 **妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援** **総合戦略**  
 予防を柱とした母子保健の充実を図り、妊娠、出産から子育てまでの切れ目のない発達や成育の支援を推進します。
- 2 **地域子育て支援の推進** **総合戦略**  
 子育てに関する情報発信や相談体制を整え、親子が安心して利用できる居場所や交流の場の充実を図ります。また、学校施設の利活用や児童館、放課後児童クラブなど、子どもが安全に安心して過ごせる居場所の充実を図ります。
- 3 **質の高い保育サービスの充実** **総合戦略**  
 就業形態や保育ニーズの多様化に応えるため、幼保連携や民間活力の導入を検討するなど教育・保育環境の充実に努めるとともに、保育サービス従事者の資質と専門性を向上し、より質の高い保育サービスを提供します。

## 指標

指標	指標の内容	現状値	目標値 (令和7年度)
妊婦家庭訪問実施率	妊婦の家庭訪問の実施率 (訪問件数 ÷ 対象者)	90.4% (令和元年度)	93.4%
乳幼児健康診査受診率	乳幼児の健康診査の受診率 (受診者数 ÷ 対象者)	98.3% (令和元年度)	98.5%
地域子育て支援センター利用登録率	市内5か所の地域子育て支援センターの利用登録率	79.4% (令和元年度)	85.0%
保育施設等の入所率	保育施設等の利用定員に対する入所率	96.3% (令和元年度)	97.0%

### 令和元年度市民アンケート調査の満足度 (満足している・どちらかといえば満足しているの回答割合の合計値)



# 12 学校教育

## 施策目的

自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた  
未来を担う子どもが育つまちになる

- ▶ 安全安心な学習環境の整備による学習効果の向上
- ▶ 将来に向けて必要な学びの機会の提供と適切な進路選択
- ▶ 地域の教育力を生かした地域とともにある学校づくり

## 現状と課題

### 安全で安心な「学び」の環境づくり

学校は、子どもが一日の大半を過ごす場所であり、安全と安心が十分に確保される必要があります。また、一人一人の個性に合わせた効果的な学びや学習支援が求められています。

### 子どもの個性に応じたサポート

子どもが将来に夢や希望を持ち、その実現に向かって努力することができるよう、子どもの個性に合った様々なサポートが必要です。

### 学校を取り巻く複雑化する課題への対応

学校が抱えている課題は、複雑かつ多岐にわたっており、学校だけで解決することが難しくなっています。そのため、学校は、地域・家庭・関係機関との連携や協働を図りながら教育活動を展開していく必要があります。

### 子どもの学ぶ意欲・資質・能力の育成

変化の激しい時代を生きるために、子どもが自ら学ぶ意欲や資質、能力を身につけるとともに、国際化や価値観の多様化に伴い、異なる価値観や倫理観をもつ人への理解を育む必要があります。

### 地域・家庭・関係機関との連携強化

子どもを取り巻く様々な問題の発生防止と解決に向けて、地域や家庭、関係機関などと連携を図りながら子どもを支える一体的な取組が必要です。

### 食育の必要性

子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、給食を「生きた教材」として活用し、積極的に食育に取り組んでいくことが必要です。

## 施策の方向

### 1 学習環境や生活環境の充実

学校が安全で安心な学びの場になるよう、学校における生活環境の充実を図るとともに、ICT<sup>(※1)</sup>化を推進し、子どもの学習活動の充実を図ります。

### 2 夢と希望の実現に向けた支援の充実

子どもが夢を育み、それを実現するために必要な学びの機会を得るための支援を行うとともに、望ましい勤労観を育てるためのキャリア教育の充実を図ります。

- ▶ 「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」の調和のとれた子どもの育成
- ▶ 学校・家庭・地域が一体となって取り組むたくましく生きる力の育成
- ▶ 食の大切さへの理解と正しい食生活の実現

### 3 地域の教育力を生かした学校運営

学校と地域が目指すべき方向やビジョンを共有し、地域の教育力を生かした効果的な教育活動を展開するとともに、学校評価結果を様々な教育活動に反映させ、学校運営に生かします。

### 4 確かな学力と豊かな心を育む教育の推進

一人一人の発達の段階や能力に応じたきめ細かな教育の充実を図るとともに、異なる価値観を持つ人々への共感能力を育むため、郷土の魅力である日本遺産「里沼」を活用した、自然に親しむ体験的な学習を推進します。

### 5 「自助」や「共助」の意識を育む教育の推進

たくましく生きる力を身につけた子どもの育成に向けて、地域社会と共に助け合いながら（「共助」）、自らの命は自ら守る（「自助」）意識が行動につながるよう、地域や家庭、関係機関などと連携した防災教育を推進します。

### 6 教育活動における食育の充実

子どもや保護者が食の大切さや食文化などについて学ぶことができるよう、教育活動全体の中で食育を進めます。



## 基本目的Ⅲ



### 指 標

指標	指標の内容	現状値	目標値 (令和7年度)
標準学力テストで 全国平均を上回る 学校数	全国で実施される標準学力テストにおいて、 6年生の2教科(国語・算数)の得点が全国 平均を上回る小学校数	11校 (令和元年度)	11校
	全国で実施される標準学力テストにおいて、 2年生の5教科(国語・社会・数学・理科・英語) の得点が全国平均を上回る中学校数	3校 (令和元年度)	5校
新体力テストで全 国平均を上回る学 校数	全国で実施される新体力テストにおいて、5 年生の得点が全国平均を上回る小学校数	男子6校 女子5校 (令和元年度)	男子11校 女子11校
	全国で実施される新体力テストにおいて、2 年生の得点が全国平均を上回る中学校数	男子2校 女子3校 (令和元年度)	男子5校 女子5校
小中学生の豊かな 心の育成の達成度	小中学校で実施される学校評価における「豊 かな心の育成」の達成度 (子ども・教師・保護者による自己評価及び学 校評議員による学校関係者評価の各項目がA 評価である学校数)	小学校3校 中学校2校 (令和元年度)	小学校11校 中学校5校
学校における教育 の情報化	教育の情報化の実態等に関する調査における、 小中学校の教育の情報化の平均値	(平成30年度)	全指標において実績値年 度の全国平均を上回る
	教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	5.7人/台 (全国平均5.4人/台)	
	普通教室の無線LAN整備率	0% (全国平均41.0%)	
	インターネット接続率	100% (全国平均93.9%)	
	普通教室の大型提示装置整備率	61.6% (全国平均52.2%)	
	統合型校務支援システム <sup>(※2)</sup> 整備率	100% (全国平均57.5%)	
	教員のICT活用指導力	82.9% (全国平均69.7%)	

- ※1 ICT…Information and Communication Technology（インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）の略称。情報通信技術のこと。
- ※2 統合型校務支援システム…教務系（成績処理、出欠管理、時数管理など）、保健系（健康診断票、保健室来室管理など）、学籍系（指導要録など）、学校事務系などを統合した機能を有するシステムのこと。



# 13 青少年

## 施策目的

心身ともに健全な子どもが育つ  
家庭や地域の教育力が高いまちになる

- ▶ 子どもの健全育成に必要な学びと体験ができる環境の整備
- ▶ 子どもが安全かつ安心して生活できる環境の実現

## 現状と課題

### 家庭の教育力向上

核家族化の進展や親の働き方の多様化により、子育てに課題を抱える家庭が増加しているため、子育て世代の家庭を社会全体で支援する取組が求められています。

### 子どもの地域参加の促進

子ども会への加入率の低下や活動休止となる子ども会の増加など、子どもの社会性を育む機会が減少しつつあります。今後、子ども会育成会の活性化を促すなど、子どもが地域社会に参加しやすい環境を整えていく必要があります。

### 子どもを取り巻く犯罪リスクの増加

昨今、SNS<sup>(※1)</sup> などネット上で子どもたちが犯罪やトラブルに巻き込まれやすくなっています。今後、家庭・地域・学校が連携を強め、子どもや保護者に徹底した啓発を進めるとともに、非行や子どもをめぐる犯罪が起きにくい明るい地域社会づくりを進めていく必要があります。

## 施策の方向

### 1 家庭の教育力回復を図る取組

子どもの健全育成の根幹となる家庭の教育力を向上させるための取組を推進します。

### 2 子どもの健全育成を促進する学びの機会の提供

社会体験や自然体験など、魅力的で多彩な子どもの学びや自主性を重んじた遊びの機会を提供するために、関係団体とともに指導者の育成を進めるほか、子どもの健全育成に資する活動や団体の創出、支援に努めます。

### 3 地域社会における子どもの安全安心の確保

関係機関や各種団体と問題や情報の共有を図りながら、地域における子どもの見守り体制を充実するほか、SNSの適切な使い方などを啓発し、インターネット上の脅威から子どもたちを守る取組を進めます。



## 指標

指標	指標の内容	現状値	目標値 (令和7年度)
放課後子ども教室 (※2) 開設数	放課後に子どもが安全かつ安心して活動ができる教室の開設数	1箇所 (令和元年度)	6箇所
公民館で開催する 少年教室の参加者数	各公民館で開催する少年教室への参加者数	1,697人 (令和元年度)	2,000人
インターネット問題に関する講座への参加率	各中学校の思春期講座において開催されるネットリテラシー(※3)に関する講座への参加率	3.4% (令和元年度)	20.0%

- ※1 SNS…Social Networking Service (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の略称。インターネット上で人と人とのつながりや交流を楽しむコミュニティ型のサービス。Facebook、Instagram、LINEなどの総称。
- ※2 放課後子ども教室…放課後などに、子どもたちの安全安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、学習活動やスポーツ・芸術活動、地域住民との交流活動などを実施する取組。
- ※3 ネットリテラシー…インターネットを正しく使いこなすための知識や利用できる能力。



# 14 生涯学習

## 施策目的

生涯にわたって学び続けることができ、  
生きがいと活力に満ちたまちになる

- ▶ 生涯学習を通じた豊かなまちづくり
- ▶ 生涯にわたる学びを保障する環境づくり
- ▶ 地域づくりの担い手が育ち、課題解決のための社会教育を展開

## 現状と課題

### 生涯学習環境の拡充

全ての人が生涯にわたって学ぼうとする意識を高めるためには、人々の学ぶ意欲を喚起し、その意欲に応えるための仕組みを整えるなど、学習環境の充実が求められています。

### 現代的課題の啓発と解決を目指した社会教育の充実

急激な社会変化によって、地域には様々な課題が山積しています。課題の啓発や解決手法を学べる社会教育機会の充実が求められるほか、地域づくりの担い手となる人材の育成が必要となります。

### 生涯学習成果の社会還元

一人一人の学びの成果が地域に還元されることが期待されているため、様々な成果を地域に集積し、誰もがその成果を享受できる仕組みが必要です。また、学んだ人々が生きがいと高い当事者意識を持ち、地域社会のために貢献することが求められています。

### 生涯学習拠点施設の機能充実

生涯学習拠点施設の利用者の利便性や快適さを確保しつつ、多様化する利用者のニーズに応えることができるよう、施設機能の充実を図る必要があります。

## 施策の方向

### 1 生涯学習理念の普及啓発

豊かな地域づくりのため、生涯学習の必要性を普及啓発するとともに、人々の学習意欲を高めるための学びの機会を提供します。

### 2 生涯学習情報提供・相談体制の充実

学びに必要な様々な情報を容易に入手できるよう、提供体制を整えます。また、学習者と学習情報のマッチングや資料の検索支援など、市民が望む学びが実現するための学習相談機能を高めます。

### 3 課題解決型の学習活動の促進と人材の育成・活用

課題解決を目指した社会教育機会を提供するとともに、地域づくりの担い手となる人材の育成や市民の自主性の醸成を図ります。また、生涯学習ボランティア講師登録制度の充実と活用の促進を図ります。

▶ 人々の学習ニーズに合った学習活動の機会と拠点施設の充実

4 多様化する学習ニーズへの対応と個性に応じた学びの場の創出

各種情報メディアやICT<sup>(※1)</sup>を積極的に活用するほか、個性に応じた学びの場を拡大するなど、多様化する学習ニーズに対応します。

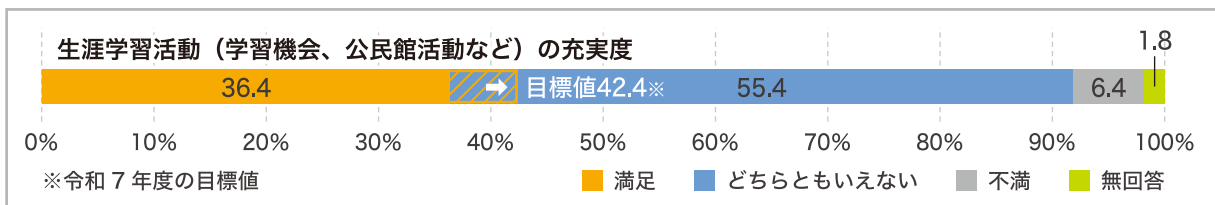
5 生涯学習・社会教育施設の適正な維持更新と機能充実

予防保全に取り組み、施設の長寿命化に努めながら、地域活動や多様な学びの拠点である施設として期待に応えられるよう、施設機能の充実を図ります。

指 標

指標	指標の内容	現状値	目標値 (令和7年度)
ふるさとづくり出前講座件数	市民団体・グループへ出前講座として市や公共機関、団体などの職員を派遣した件数	198件 (令和元年度)	205件
生涯学習ボランティア登録数	地域の生涯学習指導者として登録しているボランティアの数(個人、企業・団体)	個人 90件 企業・団体 7件 (令和元年度)	個人 100件 企業・団体 10件
向井千秋記念子ども科学館利用者数	子ども科学館の入館者数及びプラネタリウム観覧者数。現状値は過去5か年の平均値。	入館者 62,812人 観覧者 25,006人 (平成27～令和元年度)	入館者 66,000人 観覧者 27,000人
図書館資料延べ貸出点数	図書館資料の延べ貸出点数	227,537点 (令和元年度)	228,500点

令和元年度市民アンケート調査の満足度 (満足している・どちらかといえば満足しているの回答割合の合計値)



※1 ICT…Information and Communication Technology (インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー) の略称。情報通信技術のこと。

# 15 文化

## 施策目的

地域の歴史や伝統、芸術や文化に誇りをもち、魅力ある文化を育み、心豊かに暮らせるまちになる

- ▶ 優れた芸術文化に触れる機会の創出と、市民の主体的な芸術文化活動の促進
- ▶ 自然や歴史と調和した新たな芸術文化活動の創造

## 現状と課題

### 質の高い魅力ある文化創造

地域の多様な文化資源を生かしながら、質の高い魅力ある文化の創造を継続・発展させていく仕組みづくりが求められています。

### 歴史文化を生かした地域づくり

市民の歴史文化への関心が薄れつつあるため、歴史文化を生かした地域づくりが求められています。

### 文化財保護の担い手の減少

価値観の多様化や人口減少の進行とともに、文化財保護の担い手が減少しているため、新たな担い手の育成と文化財保護の継続・発展が求められています。

### 文化財の面的活用の必要性

文化財などは、歴史的遺産として個別に点として指定することで保存されてきましたが、個々の歴史的遺産をストーリーとしてつなぐことで、面的に活用するとともに、魅力を発信する必要があります。

## 施策の方向

- 1 **芸術文化活動の拠点施設の充実** 総合戦略  
芸術活動や文化活動の拠点となる施設の充実を図ります。
- 2 **芸術文化活動の推進** 総合戦略  
優れた芸術を鑑賞する機会を充実させるとともに、芸術文化活動の場の提供や新たな芸術文化創造の支援に努めます。
- 3 **郷土の歴史文化を学ぶ機会の充実** 総合戦略  
郷土の歴史や文化について、市民が学び興味を持つ機会の充実を図ります。
- 4 **歴史文化の活用** 総合戦略  
学習や観光、産業の振興など、歴史文化の魅力をまちづくりの様々な分野で生かします。
- 5 **文化財の保護・継承環境の整備** 総合戦略  
文化財の保護・継承に必要な施設や設備、制度を市民とともに整備します。

- ▶ 地域に残る里沼をはじめとする歴史文化に誇りと愛着を持ち、当事者として自ら活動できるシビックプライドの醸成
- ▶ 歴史文化や文化財の持つ魅力を市内外へ発信及び交流人口の増加
- ▶ 文化財を保護・継承するための仕組みづくり

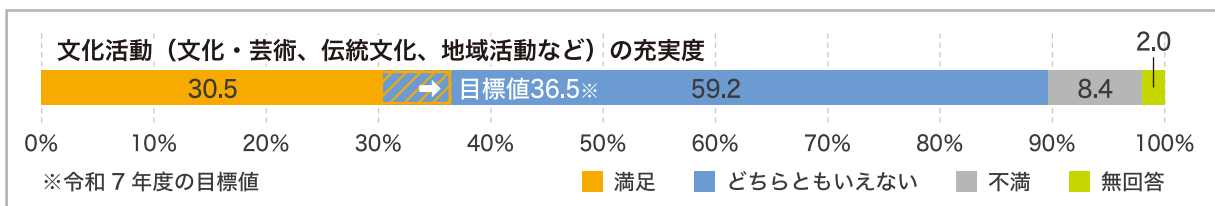
## 6 日本遺産を活用した地域の魅力発信や環境整備 **総合戦略**

日本遺産認定に伴い、郷土の歴史文化の魅力を発信し、観光・産業振興などの分野に生かせるよう環境整備をします。

### 指標

指標	指標の内容	現状値	目標値 (令和7年度)
芸術文化施設における市民1人当たり年間利用回数	文化会館、三の丸芸術ホールにおける市民1人当たりの年間利用回数	2.5回 (令和元年度)	2.5回
歴史文化施設における市民1人当たり年間利用回数	第一資料館、第二資料館、田山花袋記念文学館における市民1人当たりの年間利用回数	0.3回 (令和元年度)	0.3回

### 令和元年度市民アンケート調査の満足度 (満足している・どちらかといえば満足しているの回答割合の合計値)



# 16 スポーツ

## 施策目的

スポーツを生活に取り入れ、誰もがスポーツを楽しめるまちになる

- ▶ スポーツ・レクリエーション活動の場の拡充と、目的やライフスタイルに合わせた主体的なスポーツへの取組の増加

## 現状と課題

### スポーツニーズの多様化

スポーツなどに取り組む市民ニーズの多様化により、地域や仲間などと、身近なところでスポーツを楽しめる機会の提供や環境づくりが求められています。

### スポーツ活動の活性化

スポーツの普及振興を図るためには、スポーツ団体及び地域の活動が活発に行われることが必要であるとともに、それを支える指導者の人材確保及び育成が必要です。

### 競技スポーツの振興

スポーツの競技人口を増やすためには、選手の競技力向上のための環境づくり及び指導者の養成が必要です。

### 安全安心なスポーツ施設

多くの市民や競技者が安全かつ安心してスポーツ施設を利用できる環境が求められています。

## 施策の方向

- 1 スポーツ環境の充実** **総合戦略**  
スポーツに対するニーズの把握に努め、体力・目的に応じて誰もが気軽にスポーツを楽しむ事業及び環境づくりに取り組みます。
- 2 スポーツ活動への支援** **総合戦略**  
スポーツ団体及び地域の主体的な活動が促進されるよう指導者の養成及び育成を図り、自立を支援します。
- 3 競技スポーツの推進** **総合戦略**  
競技性の高いスポーツ大会の開催及び県民スポーツ大会などへの選手派遣等の環境整備を図るとともに優れた競技指導者の養成を図ります。
- 4 スポーツ施設の適正管理** **総合戦略**  
安全で利用しやすいスポーツ施設となるよう、適切な維持管理を行うとともに、設備の充実を図ります。

- ▶ スポーツ施設を快適に利用できる環境の整備と、スポーツ指導者の育成によるスポーツ環境の充実
- ▶ 競技スポーツ人口の増加と、スポーツ競技力の向上

## 指 標

指標	指標の内容	現状値	目標値 (令和7年度)
スポーツ実施率 (週1回以上)	週1回以上スポーツに取り組んでいる人の割合	31.3% (令和元年度)	50.0%
各種スポーツ教室 への参加者数	各種スポーツ教室への参加者数	706人 (令和元年度)	1,000人
スポーツ施設に関する 満足度	市民が安心してスポーツに親しめる施設づくりへの満足度	45.3% (令和元年度)	50.0%



